



NPO
法人 大雪山
自然学校
Daisetsuzan
Nature School

2025年度 事業報告書

①環境保全活動

●自然保護対策業務

東川町大雪山国立公園保護協会の委託事業として、5/15～10/31に旭岳自然保全員13名が活動。旭岳姿見の池園地における登山道整備や清掃活動、利用マナーの普及活動を実施

⇒協力金は、3,408,423円（2024年は4,383,691円）

⇒レンタル長靴は4,429足（2,214,500円）の貸出し
※2024年は2,901足（870,300円）
※2025年よりレンタル料金が300円から500円に変更

⇒携帯トイレは670個（335,000円）販売
※612個（306,000円）販売
携帯トイレ自販機を導入し早朝利用にも対応した（3年目）
携帯トイレの購入時間は9時までが549個、対面が121個

⇒山のトイレマナーと携帯トイレ使用の普及に努め、「山のトイレマップ」を配布

今年度はフェノロジー（開花調査）を実施
2003年から2008年の調査と同条件で行い、比較を試みる



・東川町青少年野営場管理業務

東川町の委託事業として、6/10～9/30に、野営場の受付や清掃などの管理業務を行い、1,295名（国内988名・海外304名）が利用した。※2024年度利用者数は1,366名

月別利用者数は、6月161名、7月387人、8月442人、9月305人であった。

【成果】

・清掃などの環境整備を計画的に実施し、倒木の処理や施設の修繕などには即時に対応し、利用者が快適に使える環境を整えた

・朝夕にヒグマパトロールを行い、フードボックスの確認や排水溝などの食材の除去を徹底して行い、ヒグマによる事故の防止を心がけた



・外来種防除活動（セイヨウタンポポなど）

東川町大雪山国立公園保護協会の委託事業「自然保護対策事業」の一環で、旭岳におけるセイヨウタンポポとアキタブキの防除を実施。2025年度で継続6年目である。

パークボランティアさんとの合同防除活動も毎年継続していただき、安定的な防除が確保されている。

【成果】

旭岳姿見駅周辺

総採取量:アキタブキ 60.87kg、セイヨウタンポポ 11.89kg

旭岳石室周辺

総採取量:アキタブキ 3.56kg、セイヨウタンポポ 3.3kg

防除を続けることで根にたまっている栄養が使い尽くされるので個体が細くなっていくため、継続が必要

第1展望台や第4展望台でもセイヨウタンポポが発見されたため、経過観察と、種子落としマットなどの人起因の対策も検討したい



・ 外来種防除活動（セイヨウオオマルハナバチ）

セイヨウオオマルハナバチバスターズ(事務局：北海道上川総合振興局)や、大雪山マルハナバチ市民ネットワーク、大雪と石狩の自然を守る会と連携した。

毎年実施されている羽衣公園での防除イベントに参加、旭岳自然保全員でも事前に防除体験を研修に取り入れ、巡回にあたるスタッフが姿見の池園地内でのパトロールを実施した。

【成果】

・ 旭岳自然保全員の巡回中にはセイヨウオオマルハナバチは確認されなかった。

・ 裾合平などでセイヨウが見つかったりと、国立公園内への侵入の兆しも見られるため、今後も巡視が必要

・ 近年は外来種のみではなく、在来種の状況調査も進められているため、データ収集などで協力体制を作りたい



5

・ チシマザサ刈取調査

チシマザサの分布拡大による既存の植物種の衰退に対して効果があるとされるササ刈りを姿見で進めるための調査を2022年より実施している。毎年調査区内のササの刈り取りと、植生のモニタリングを実施している。

今年で4年目となるが、未だササの再生が目立つ。ササの密集度がより低い調査区で植生の回復もみられている。

【成果】

- ・ 年々再生するチシマザサの量が減少してきている。
- ・ ショウジョウバカマやミヤマアキノキリンソウなどの植物の再生が目立ち始めた。
- ・ 散策路から見える位置に調査区を設定したため、公園利用者にもこの問題や調査内容を知ってもらうきっかけ作りができた。

次年度は初年度に刈り取りを行ったのみでササの再生を調査していた地点の再刈り取りを行う



6

②子供自然体験

自然体験プログラム

大雪山国立公園をフィールドに、その時期ならではの自然や文化を体験するプログラムを実施した。「今、ここ、私たち」をテーマに、この地域に暮らす人々の原体験となるような活動を展開している。また、こうした体験が将来にわたって可能であり続けるよう、自然と人との関わりを大切にし、その環境を守り残していくことにも貢献している。

◆夏休みキトウシなんでもやってみようキャンプ（宿泊）
キトウシ森林公園にて、自分たちでテントを張り、タープを設営し、キッチンをつくって「自分たちのキャンプ村」を築く2泊3日のキャンプを実施した。参加者は、自分たちが挑戦したいことに自由に取り組み、主体的に活動する時間を過ごした。20名参加。



JEEF CAMP

公益社団法人 日本環境教育フォーラム 等と連携し、経済的理由や家庭環境等により自然体験の機会が限られている子どもたちを対象に、（東京マラソン等の寄付金による）参加費無料の自然体験キャンプを年2回実施し、計40名参加した。

大雪山をフィールドとして森あそび、焚き火、野外調理、地域交流などの体験を通して、子どもたちが安心して自然の中で過ごし、自分らしく挑戦できる場づくりを行なった。

また、単なる体験提供にとどまらず、子ども同士や地域とのつながりを育み「また来たい」「自分もやってみたい」と感じられる場所づくりを大切に活動した。

今後も、家庭環境に関わらず、すべての子どもたちが豊かな自然体験にアクセスできる地域づくりを目指して取り組んでいく。



・ 森のようちえん体験 てくてく

6月より4回のプログラムを実施。計13名が参加。町内外の森のようちえん体験希望者が、キトウシこどもの森が日々過ごしているフィールドで半日体験を行う。参加者は、次年度入園希望者や地域の保育園に通われている方で森のようちえんの活動に参加させたい方、東川町で移住体験をされている方、観光で滞在されている方などが参加されている。近年の需要としては、障害を持っている方、都市で生きづらさを感じている方などの相談も増え需要が増えている。



・ 森のようちえん留学（短期）

移住希望者、短期の森のようちえん活動の体験希望者に、キトウシこどもの保育体験プログラムを実施。2025年度はタイより2名が1ヶ月の留学を行う。近年問い合わせも多くなってきている。



9

・ キトウシこどもの森 「キトキト」

キトウシこどもの森「キトキト」は、企業主導型保育事業として、2025年度は12名の園児が在籍。夏には海外から短期（1ヵ月）入園2名。自然の中での暮らしと体験を大切にしながら、一人ひとりの子どもの主体性を育む保育を行いキトウシの森で生活・遊びを展開している。

主な活動内容

春は森探検、夏は水遊びや畑活動、秋は木の実や落ち葉を使った制作、冬はひたすら雪遊び。自然とともにある暮らしを一年を通して実践した。

木育活動：森の素材を活かした制作活動を木育マイスターを持っているスタッフと行った。

地域活動：地域とのつながりもさらに広がった。

森づくり活動や地域イベントへの参加、ASOBIBA！との連携、自然学校の活動との協働を通して、保育の枠を越えた多世代交流や地域との関わりが生まれている。



10

町内活動（全園児・年長：プレスクール）

年長児は、町中散策、買い物体験や公共の場での活動、硬筆練習、小学校見学・実験・探究活動などにも取り組み、就学に向けた社会性や考える力を育む機会を設けている。全園児での町内活動としては、畑での活動、展示会訪問、農家さんとの交流等行う。

成果：町内活動や公共の場での体験を通して、子どもたちは地域の中で自分で考えて行動する力や、人との関わり方を少しずつ身につける姿が見られた。

買い物体験では、自分で商品を選び店員さんとやり取りをする経験から、社会との関わりへの自信につながりました。また、硬筆練習では集中して取り組む力や文字への関心が育まれ、実験・探究活動では「なぜ？」「やってみたい！」という主体的な学びの姿勢が深まった。活動を重ねる中で、年長児として小さな子どもたちを気にかける姿や、自分の考えを言葉で伝えようとする姿も増え、就学へ向けた社会性や主体性の育ちにつながっている。



キトウシレンジャー活動

日々キトウシをフィールドとして過ごす子どもたちと共に、自然と共生する中で「自分たちにできること」を考えながら活動を行った。雪解け後のゴミ拾い、森の日々の見回り、枝を活用した自然歩道づくりによる野草保護など、子どもたち主体による自主的な保全活動を継続して実施している。

成果：活動を通して、子どもたち自身の環境保全への意識が高まり、「自分たちの森を自分たちで守る」という主体性が育まれた。また、子どもたちからの発信により、利用者の方々にも森を大切に利用しようとする意識が広がっている。キトキトが中心となって収集した自然情報や季節の見どころをまとめたパンフレットも、地域の方や来訪者に活用されている。

今後は、旭岳自然保全員の方々にも助言をいただきながら、より継続的な保全活動を実施していき。また、自然学校外の掲示板でキトウシの自然情報や注意喚起等を発信し、東川振興公社とも連携を深めながら、地域全体で森を守り育てる取り組みへつなげていく。



・動物と共に育つ地域交流事業

羊とのふれあい・自然循環体験活動

昨年度をもって馬の飼育事業は終了となったが、その後もキトウシの森をフィールドに、「生きものと共に暮らすこと」や「命の循環」を感じられる体験活動を継続して行った。2025年度は、5月から10月にかけて羊の飼育・お世話を実施し、子どもたちと共に日々の世話やふれあい活動を行った。また、羊の毛刈り体験やふれあい体験を通して、生きものへの理解や親しみを深める機会づくりを行った。さらに、昨年度の馬事業に引き続き、羊のふんを活用したコンポストづくりや畑づくりにも取り組み、自然循環や食への学びにつながる活動を実施した。

旭川市内の保育園2園や町内施設とも連携し、羊とのふれあい体験の場を提供することで、地域の子どもたちが自然や動物と関わる機会づくりにもつながった。

羊との日々の関わりを通して、子どもたちに思いやりや責任感が育まれ、生きものへの関心や命を大切にする気持ちが深まった。また、毛刈りや堆肥づくりなどを体験することで、自然循環や暮らしとのつながりを学ぶ機会となった。

地域の保育施設等の利用も広がり、キトウシの森を活用した自然体験・動物体験の場として、地域交流の広がりにもつながっている。



13

③交流推進事業

・自然学校プログラム

○くらしの森

季節の手しごとや食をテーマに、「くらしを楽しむ」をコンセプトとした体験プログラムを実施。味噌づくり、羊毛の作業など、東川らしい知恵や自然とつながる暮らしを体験しながら、地域の方々と共に学び合う場づくりを行った。参加者同士の交流が深まり、日々のくらしや食への関心を高める機会となった。手を動かしながら参加することで、季節や自然への興味を深める姿が見られた。

○子育てサロン くらしの森

月2回、町内の子育て世代を対象とした交流サロンを開催。親子で気軽に集まり、お茶を飲みながら子育ての悩みや日々の出来事を共有したり、季節の遊びや簡単な手しごとを楽しんだりする場となっている。子育て世代同士のつながりが生まれ、安心して相談し合える地域の居場所づくりとして、また、地域の多世代との交流も生まれ、移住者の多い東川で孤立しがちな子育て家庭の支え合いの場として継続的な活動となっている。



14

・ 受託プログラム

●東川町

東川高校 探求事業（3月）水育プログラム実施

幼児センタープレスクール 6回（5月、9月、2月）

子育て支援センター 2回（5月、9月） ※子供体験活動として実施

多摩美術大学との連携授業開始（3月）※2026年度6月にアート祭実施



●森のようちえん研修の受け入れ

東川町内小学生 森のようちえん体験（ASOBIBA!）

福島県磐梯町教育委員会 視察（教育長・プロマネ）

東川高校 保育士体験

※その他、上川・旭川等の近隣の施設、道外施設の視察も都度受け入れ



●東川町視察受け入れ

福島県磐梯町教育委員会 視察

※その他、上川・旭川等の近隣の施設、道外施設の視察も都度受け入れ

役場の受け入れができない等、東川町の視察希望者の対応需要あり



15

④人材育成

・ ボランティア・インターンの受け入れ

旭岳環境保全プログラムでは、NPO法人ezorockや酪農学園大学の交換留学生（サバ大学）との関係性が継続し、道内外から多くの方が参加した。

ボランティア参加人数は延べ153名、その中でも長期滞在ボランティアは、1週間から最長4ヶ月の受け入れで4名が参加した。

キトウシ子どもの森では、幼児期の環境教育の場の体験として、社会人（教育機関の関係者）6名、東川高校の生徒が6名参加し、計12名が環境教育の現場を経験した。



16

・森づくり指導者育成

◆道立北の森づくり専門学院の技能養成コース実習で講師を担当した。15名の受講生を受け入れ、3回に分けてプログラムを実施した。

- ・キトウシの森が安全に活動できるよう散策路整備 ※2回実施
(ウルシの除去やササ刈り、倒木処理)
- ・高山植物園の環境整備
(木道の草刈り、園内の笹刈り、植物紹介カードの設置など)

◆公益社団法人北海道森と緑の会の助成事業として、昨年度に引き続き「キトウシの森ボランティアリーダー育成事業」を実施した
(2025年4～6月)



17

・森つく (月に一度は森づくり)

キトウシでの市民参加型の森づくり活動を年間を通じて毎月実施した。主な作業は倒木処理・歩道整備に加え、野鳥・植生の調査・観察、巣箱掛け、イタヤカエデの樹液採取とメープルシロップの収穫等多様な活動を行う。

参加者が森を楽しみながら行うこれらの活動そのものが森林の健全化と地域資源の再発見に直結する仕組みである。定例10回を実施し、延べ参加者は**248名**に達した。東川高校の生徒と水育プログラムを実施。学生やボランティアなど、人材育成の場としても開かれている。

これまで四季を通してキトウシを楽しんでもらえるようにキトウシこどもの森や森つくでの観察データをもとに、パンフレット作成し、キトウシ訪問者に配布してきた。結果として、持続可能な森林管理の基盤を強化するとともに、市民の環境意識と地域への愛着を高めた。今後、野鳥観察図鑑を完成させていく予定。

